

# ノーモア・ヒバクシャ通信 第69号

2025年7月16日

ホームページ <http://www.nomore-hibakusha.org>  
継承ブログ <http://keishoblog.com/>  
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>  
X(旧Twitter) <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者  
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
〒102-0085  
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F  
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)  
Email: [info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org](mailto:info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org)  
郵便振替口座 00110-5-292881  
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

## 《目次》

I. 第13回通常総会の報告 .....	1
II. 被爆・戦後80年企画実行委員会の報告 .....	3
III. 被団協総会後にオンライン・ミュージアム体験交流会 .....	4
IV. メールマガジンの発刊、マンスリーサポーター100名募集! .....	5
V. 出版のお知らせ 中澤正夫著『ヒバクシャの心の傷を追って』が文庫に .....	7

### I. 第13回通常総会の報告

去る5月24日、東京四谷の主婦会館プラザエフで正会員数74名の出席で第13回通常総会が開催され、2024年度事業報告及び決算、第11期役員選任を承認するとともに、2025年度事業計画及び予算の報告と、特別報告「設立14年 継承する会のとりくみと課題」の説明、のべ9名が発言し討議を深めました。その概要は次の通り。

- ：地域における継承の取組み（の一つの例）として、学校（北星学園）が解散した被爆者の会の受け皿となって北海道ヒバクシャ連絡センターに改編し、またノーモア・ヒバクシャ会館は北星学園が所有することとなった。北海道庁がこれを補助することとしている。
- ：地方では、被爆者の会に補助する制度があり、解散しなければ（補助金を）継続できることを知っておくべきだ。
- ：各地の大学が継承の拠点づくりに協力してほしい。また、地方の報道関係者とも協力して取り組みたい。
- ：奈良では、被爆者の体験記・証言集が学校に配布されることになってから、学校関係者から「8月夏休みに全校登校日をつくり、被爆者の証言を頼みたい」旨の要望が出されている。
- ：弁護士として被爆者の法律相談を受けていて「声を上げる困難さ」を実感している。圧倒的な被爆者が声を上げられない、それでも活動に参加するのは「生きることが戦いになっているからだ。」「声なき声が運動を進めてきた（と思う。）」
- ：日本映画社が被爆直後の期間に撮った（GHQ等の検閲から逃れた）「記録映画（が

あるはず)」を探している。

○：祖父がメディアに被爆体験を話していたことで、身内として初めてその一面を知ることができた経験がある。（語ることは。後世に伝わる。）

(関連資料)

## 1. 第11期役員体制について

役職	氏名	備考
代表理事	濱住 治郎	日本被団協事務局長
副代表理事	安斎 育郎	立命館大学名誉教授
副代表理事	家島 昌志	(一社) 東友会代表理事
副代表理事	大久保賢一	反核法律家協会会長
副代表理事	二村 睦子	日本生協連専務理事
理事	伊藤 和久	事務局長
理事	糺谷 陽子	元中学校社会科教員
理事	近藤 麻子	日本生協連組織推進本部長
理事	聞間 元	医師
理事	木戸 季市	日本被団協顧問
理事	棚田 一論	日青協事務局長
理事	内藤 雅義	弁護士
理事	直野 章子	京都大学教授
理事	中尾 詩織	(株) サイバーエージェント社員
理事	中澤 正夫	医師
理事	永田 浩三	武蔵大学名誉教授
理事	林田 光弘	(一社) Peace Education Lab Nagasaki 代表理事
理事	三宅 文枝	原爆被害者相談員の会 代表
理事	八木 良広	昭和女子大学助教
監事	木村 誠	司法書士
監事	和田 征子	日本被団協事務局長次長

## 2. 【特別報告】設立から14年 継承する会のとりのくみと課題 =概要=

総会の特別報告として、事務局の栗原から、継承する会の設立から14年のとりのくみの概要と当面する課題について報告しました。

2011年に設立した継承する会は、日本被団協の運動史料(原爆被害を究明する各種調査・研究や原爆被害への国家補償を国に求めるとりのくみ、核兵器の反人間性を世界に広げ禁止条約に結実した運動など)を中心に、不定形の史料をもんじょ箱に250箱余り、各県被爆者の会の証言など原爆・被爆者関連の書籍・冊子類7,000点余り(目録化したもの。未整理・複数のもを含めると約2万冊)を収集・整理してきました。現在、4

カ所に分散して保管されている史資料を一括して保管し、一般公開して利用できるセンターの設置を目標としています。

同時に、被団協の国連原爆展や各地の証言集など、可能なところから、オンラインでの公開も始めており、ホームページの改定とともに、オンライン・ミュージアムの充実・活用を急いでいます。

継承する会は、こうしたアーカイブスの機能と合わせて、独自の資料を活用した継承・交流の活動もすすめてきました（被爆者運動に学び合う学習懇談会の開催、昭和女子大学戦後史プロジェクトとの協働など）。会はまた、全国各地に小さくても“ノーモア・ヒバクシャ”の拠点をつくろうと呼びかけています。

日本被団協のノーベル平和賞受賞を機に、次世代への継承や会への期待が高まっています。ノーベル委員会のフリードネス委員長は、「被爆者たちの遺産を受け継いでいくのは、私たちすべての人間の責任だ」と述べています。

継承する会には、被爆者たちの原爆との長いたたかひの結晶ともいえる資料を保存・整理し、次代の人びとがそれに学び、核兵器も戦争もない世界を自ら考え創造していくための〈手がかり〉として生かせるようにすることが求められています。

これらの事業を推進するためにも、会を恒常的に支える人、安定的な資金、場所の確保が急務です。

## II. 被爆・戦後 80 年企画実行委員会の報告

本会も実行委員会の一員となって、被爆・戦後 80 年を期して「ノーモア・ヒバクシャ」を継承する取り組みを強化し、それを発信するイベントを開催します。

詳細は以下の実行委員会からのお知らせの通りです。

\*\*\*\*\*

来る 2025 年 10 月 11 日（土）に、有楽町朝日ホールにて「被爆・戦後 80 年企画～核兵器も戦争もない世界を求めて～記憶を受け継ぎ未来へ～」を開催いたします。今年は被爆・戦後 80 年という節目の年であり、昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞されたことを受け、この機運をさらに高め、核兵器のない世界の実現に向けた具体的な行動を起こすべく、30 団体による実行委員会を構成し、本企画を立ち上げました。この重要な取り組みに、一人でも多くの方にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

本企画では、被爆の実相を広く伝え、次世代へ継承することを目的として、多岐にわたるプログラムを検討しております。ホワイエとホールの両方を使った事業です。

ホワイエでは、12:00 から 13:00 まで「ヒバクシャと語ろう」と題し、被爆者の方々から直接お話を伺い、交流できる場を設けます。一方的な講演ではなく、双方向の対話を通して、被爆された方々の貴重な経験や平和への願いを肌で感じていただく機会です。簡易な略歴や資料も展示する予定です。

ホールでは、13:00 からの開会式の中で、受賞の報告をいただく他、若手の運動団体関係者でつくる「朗読劇」を企画しています。この朗読劇は、日本被団協の運動や被爆の実

情を若い世代や小学生にも理解できる言葉で伝え、戦後 80 年の振り返りだけでなく、参加する若い世代が記憶を継承し、未来へつなげられるような内容を目指しています。また、様々な核兵器廃絶に向けた活動する仲間たちによるリレートークもあります。各団体が、それぞれの視点から核兵器のない世界へ向けたメッセージを発信し、戦争や核について考える時間を共有します。

この企画は、私たち一人ひとりの力によって平和と核兵器廃絶のための活動を成し遂げるものです。核兵器や戦争に関心のある方、被爆者の声に耳を傾けたい方、平和な社会の実現に向けて何か行動したいと考えている方、どなたでもご参加いただけます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

詳細は、下記をご確認ください。

- 日 時 10月11日(土) 12:00 開場
- 場 所 有楽町朝日ホール
- 主 催 被爆・戦後 80 年企画実行委員会

ご多忙の折とは存じますが、皆様のご参加を心よりお願い申し上げます。

### Ⅲ. 日本被団協の定期総会後に オンライン・ミュージアム体験交流会開催

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、一昨年から日本被団協の国連原爆展や各県の被爆者の会発行の証言集をオンラインで閲覧できる仕組みをつくっています。これらを継承のためにどう活用していくか。6月19日(木)の総会終了後にTKPガーデンシティ御茶ノ水の3階会議室で、日本被団協と共催し、総会参加者有志による体験交流会を開きました。

青森から九州・沖縄までの30人余りの参加者は、このオンライン・ミュージアムを初めて観る人がほとんど。国連原爆展を開きたいけれど、多額の輸送費もかかるし…、といった悩みも、このWebサイトを上手に利用すればどこでも開けます。パソコンやスマホで一人で見ることができてもできますが、大きなスクリーンに映し出した画面をみんなで見ながら、質問したり語り合ったりすれば、何よりの学びの場になります。画面には説明文もついていますが、これを前もってダウンロードしておけば、読み上げながら説明することもできます。

各県では被爆者や二世の証言の聞き取り活動も活発にすすめられています。県内諸団体とともに『願いをつなぐ～長野のヒバクシャ 80 年目の証言～』を発行した長野をはじめ、神奈川、東京など各地からその実践も報告されました。オンライン・ミュージアムに順次アップされていく古い時代の証言集からは、原爆地獄を体験し戦後を生き抜いてきた親世代ら被爆者運動の先輩たちの苦しみや足跡を体験することもできます。

このほど日本被団協の事務局長を退任された木戸季市さんは、これまでいろいろ証言してきたが、「被爆者として、いま思っていることを書き残そうではないか」と呼びかけました。京都からは、残してきた資料の保存場所についての悩みが報告されました。

継承する会では、“ノーモア・ヒバクシャ”継承の拠点を各地に、と呼びかけていま

す。これは、被爆者だけでなく、これまで活動を共にしてきた諸団体・個人や行政などとも協力して、小さくてもそんな場を確保して資料保存と継承・交流の場にしようというものです。

そのためにも、このオンライン・ミュージアムを支援者や子どもらと一緒に見て学び合う場に、大いに活用していただければと願っています。

#### IV. メールマガジンの発刊、マンスリーサポーター100名募集！

一昨年度より取り組んでまいりましたオンライン展開の強化の一環として、正会員、賛助会員の方々の外にも、広く本会の存在と活動を知って頂き、さまざまな活動に参加して頂けるよう、多くの皆さまとの情報を共有する広場としてメールマガジンを発刊しました。また、その創刊号で紹介していますが、そのような仲間を拓げるため「マンスリーサポーター100名募集!!」クラウドファンディングを開始しました。

詳しくは、下記のメールマガジン創刊号紙面をご覧ください。

[実施期間]  
6/23(月)  
~8/15(金)

証言継承プロジェクトを  
応援して下さる  
マンスリーサポーター  
**100名募集!**

**—今、残さなければ消えてしまう—**

この大切な記憶を、次の世代へ託すために。  
どうかこの歴史を未来に伝える一員になってください。

## クラウドファンディング 開始！

皆さん、こんにちは！ NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の濱住治郎です。継承する会の会員の皆さま、今まで、さまざまなかたちで継承する会の活動に参加された方、またご支援くださった皆様にお送りし、今後の私たちと皆さまの情報を共有

するメールマガジンを発刊しました。これから月に1～2回程度、クラウドファンディングの進捗や団体の活動報告、イベントの紹介などをお届けする予定です。

一緒にノーモア・ヒバクシャの継承を考え、実践する場といたしましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、6月23日（月）から始まる、継承する会として初めてのチャレンジとなる「マンスリーサポーター100名募集！」クラウドファンディングについて皆様にぜひ知っていただきたく、お知らせいたします。



クラウドファンディングの詳細はこちら

<https://syncable.biz/campaign/7948>

## なぜ今、この活動が必要なのか？

広島・長崎の原爆投下から80年。被爆者の証言や運動の歴史は、今まさに風化の危機にさらされています。「二度と同じ悲劇を繰り返さない」——この思いを次世代につなぐため、認定NPO法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、クラウドファンディングを通じてマンスリーサポーターを募集しています。

いま力を入れている主な取り組みは、

1. 被爆の証言や資料の保存・デジタル化
2. 若い世代への継承活動の充実（ワークショップや教材開発など）
3. 世界への発信強化（英語化・多言語化）

の3つです。

被爆者の高齢化が進み、証言や資料の保存・継承には今まさに支援が必要です。私たちは、資料のデジタルアーカイブ化や継承センターの設立、若い世代や市民が学び合う場づ

くり、国際的な情報発信にも力を入れています。

この活動を支えることで、被爆体験や「ノーモア・ヒバクシャ」の志を未来へとつなぐ一員になれます。あなたのご支援が、記憶を守り、平和な未来を築く力になります。

## 【募集概要】

主催：認定 NPO 法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

期間：2025 年 6 月 23 日（月）～8 月 15 日（金）

目標：マンスリーサポーター100 人以上

この大切な活動に、ぜひご参加・ご協力ください。

今回の初めてのチャレンジにメンバーがかける想いやこれから実施していきたいことをまとめておりますので、ぜひこちらからご覧ください。

クラウドファンディングの詳細はこちら

<https://syncable.biz/campaign/7948>

認定 NPO 法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

〒1020085

東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

☎ 0352167757

<https://www.nomore-hibakusha.org/>

## V. 【出版のご案内】

中澤正夫著『ヒバクシャの心の傷を追って』が現代文庫に

精神科医の中澤正夫さん（当会理事）の著書『ヒバクシャの心の傷を追って』（岩波書店、2007.7）が、このほど、岩波現代文庫として刊行されました（定価 1130 円＋税）。

原爆被害はいのち・くらし・ころにおよぶ被害だと言われてはいますが、心の被害について書かれた本は極めて少なく、この本の刊行時には、被爆者や研究者、法律家、医療関係者など各方面から歓迎され、合評会も数回にわたって開かれました。原爆がこの世に現出した〈地獄〉としか言いようのない極限状況は、人間の記憶に欠損や断裂といった「障害」をもたらしました。その未曾有の体験がもたらした心の傷は、いまなお癒えることなくつづいています。収録された事例の数々がその激甚さを物語っています。

被爆から 80 年、自身の体験として、その〈地獄〉体験を語る人も少なくなっています。原爆がどれほどの傷を人間の心に刻み込んできたのか、人間はその苦しみとたたかいながら、どのように生きてきたのかを、知り、感じ、考え合うためにも、一人でも多くのみなさんに読んでいただきたいと願っています。

★ 以下の資料を同封します ★

### (1) 絵本「母と妹への手紙」発行のお知らせ・普及のおねがい

当会設立当初から代表理事をつとめ、2020年9月に亡くなられた岩佐幹三さん（元日本被団協代表委員）が、NHK広島「ヒバクシャからの手紙」に応募した「母と妹への手紙」が絵本になります（9月発行予定）。

制作は、石川県の「平和の子ら」委員会。石川県原爆被災者友の会が2022年に閉会してしまったため、厚労省の慰霊事業による出版助成金を申請することもできず、制作費は販売・普及で賄うほかありません。

岩佐さんの願いを多くの人びとに伝えるためにも、みなさまのご支援をお願いします。

### (2) 被爆80年 第19回 被爆者の声をうけつぐ映画祭2025のご案内

被爆80年、今年も9月13日（土）・14日（日）の両日、武蔵大学江古田キャンパス・大講堂で、被爆者の声をうけつぐ映画祭が開催されます。

原水爆禁止署名運動の昂揚のなかで開かれた1955年の世界大会。参加した被爆者らのことば、『生きていてよかった』がタイトルとなった翌56年のドキュメンタリー作品（亀井文夫監督）。世界に反核運動が広がった1980年代、核兵器や核戦争についての無知の怖さを感じさせられた『アトミック・カフェ』（1982、アメリカ）や『風が吹くとき』（1986、イギリス）など、話題作が満載です。井上ひさしの芝居『父と暮せば』は、こまつ座で上演中ですが、芝居を観たことのある方もない方も、その映画版（2004、黒木和雄監督）をぜひお見逃しなく。

以 上